

研究推進支援本部 Presents

Sci-Comm. Café

科学コミュニケーションカフェ

第1回：研究者のための「科学コミュニケーション」

～研究と世界をつなげる技術と考え方～

1. 科学コミュニケーションとは？
2. 研究者の社会リテラシーとは？
3. 研究者は社会課題にどう向き合うべきか？



学びを伝えるすべての人へ。

講演や執筆、学際研究、申請書作成など、研究者が専門外の人とコミュニケーションをとる機会は増え続けています。科学コミュニケーションの技術や考え方、科学（人文・社会科学を含む）と社会のつながりについて、肩の力を抜いて考えるワークショップです。

4月8日（木） 17:00～18:30

会場：後楽園キャンパス3号館3907室および遠隔（ハイブリッド）

終了後30分程会場を確保しておりますので、情報交換や交流の場としてご活用ください。

対象者：本学所属の研究者教員

- （ポスドク・大学院生－自然科学・人文社会学などを問わず）
- ・ コミュニケーションスキル（執筆・講演など）を高めたい方
- ・ アカデミア外との活動に興味・関心がある方
- ・ 研究の社会的意義について考え伝えたい方

登録：<https://forms.gle/K3ypeU56j7MHmB8p7>（Googleフォーム）

なお、新型コロナ予防の観点から、対面参加者は人数を制限させていただきます。（抽選：外れた場合もオンラインでご参加いただけます。）

お問い合わせ： 研究推進支援本部 chuo-ura-grp@g.chuo-u.ac.jp

-趣旨-

研究推進支援本部は、中長期事業計画に基づき学際的研究推進プラットフォームである「Cognitive Diversity」コンソーシアム実現を目指しています。「学彩プログラム」は、その包括的な取組としてURAが中心となって取り組んでいる研究推進活動です。

「科学コミュニケーションカフェ」は、学彩プログラムのひとつ、「共創の場の提供」に位置付けられており、本学研究者に科学コミュニケーションの考え方や技術をつたえることにより、学際的研究基盤形成、研究者個人の能力向上、および大学の社会貢献に寄与することを目的としています。

-目的-

「科学コミュニケーション」は、科学技術そのものだけではなく、それがもたらしうる社会や環境への影響について、専門家と市民が対話を通じてともに考えようというアイデアです。「専門家」には狭義の科学者だけではなく、社会・経済・倫理といった人文・社会科学の専門家も含まれます。

また、科学コミュニケーションは「考え方」であると同時に、「技術」でもあります。自らの研究について、市民や専門外の研究者などの背景を異にする他者と対話するためには、互いの文脈の違いを意識したコミュニケーションが必要です。科学コミュニケーションの技術は、研究補助金の申請や学際研究グループの形成など、研究者のプラクティカルな活動にも役立ちます。

具体的な本企画の目的は以下のようなものです。

1. 本学の研究者（教員、ポスドク、大学院生含め）に科学コミュニケーションの考え方を紹介
2. アカデミア内外とのコミュニケーションスキル（執筆・講演など）の向上
3. 学際・分野横断的研究グループ形成のきっかけの提供
4. 研究と社会課題のつながりについて意識的に考える機会の提供.

スピーカー：福井智一（研究推進支援本部URA）

京都工芸繊維大学大学院卒（学術博士）。同大学で3年間のポスドクの後、青年海外協力隊としてケニア野生生物公社（KWS）にて環境教育に携わる。帰国後、ケニアで撮りためた写真で自然写真家として活動、個展開催、講演、コンテスト受賞など。のち予備校講師を経てJST日本科学未来館にて科学コミュニケーターとして、理系文系問わず様々な研究者とイベント開催、一般向け科学記事執筆など多数。2020年10月より現職。